



スポーツ用自転車に関する耐久調査事業報告書
(平成 23 年 3 月発行)
※本報告書の無断転載を禁じます

財団法人 日本サイクリング協会
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内
TEL:03-3583-5628 FAX:03-3583-5987 www.j-cycling.org



8.8(sun) START 9:00 - GOAL 19:00
**2010 全日本 10 時間耐久サイクリング
in つくば**

スポーツ用自転車に関する 耐久調査事業報告書

■大会名

2010 全日本 10 時間耐久サイクリング in つくば

■開催日時

2010 年 8 月 8 日(日) START 9:00 / GOAL 19:00

■お問合せ先

全日本 10 時間耐久サイクリング in つくば実行委員会 (財)日本サイクリング協会内
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 Tel:03-3583-5628 Fax:03-3583-5987

■大会概要

主催：(財)日本サイクリング協会
主管：日本クロードサーキット耐久レース協議会
後援：(財)JKA、(財)日本自転車普及協会、(財)自転車産業振興協会、(社)自転車協会
協力：(財)日本オートスポーツセンター、筑波サーキット、筑波記念病院、
栃木県サイクリング協会、茨城県サイクリング協会
会場：筑波サーキット(茨城県下妻市村岡乙 159)

INFORMATION <http://www.j-cycling.org>



この事業は競輪の補助金を受けて開催しました。
<http://ringring-keirin.jp>



目次 / まえがき

目次	
目次 / まえがき	01
調査の概要 / 役員名簿	02
調査結果	03~09
使用自転車のメーカー	03
使用自転車の購入理由 / 使用自転車の車種 / 使用自転車の購入価格	04
使用自転車のフレームの材質 / 次に購入したい車種 / 自転車の重量について	05
フレームデザインを決めた理由 / コンポーネントを決めた理由 / ハンドルを決めた理由	06
サドルを決めた理由 / ペダルを決めた理由 / シューズを決めた理由	07
本大会で使用するタイヤの種類 / ホイールを決めた理由 / タイヤを決めた理由	08
ヘルメットを決めた理由 / アイウェアを決めた理由	09
つくば耐久レースへの要望	10
アンケート回答者情報	11
アンケート用紙	12
大会の様子①	13
大会の様子②	14



まえがき

一都六県にまたがる広大な関東平野の一角に位置し、緑と水に恵まれた茨城県下妻市の筑波サーキットコースに、サイクリングを愛好する参加者を迎えて、「全日本10時間耐久サイクリングinつくば」を開催した。耐久サイクリングは、より速く、より速くを目指すスポーツとしての領域にあり、本大会は今回で15回の歴史を重ね、真夏の祭典として定着している。

JCAは『快適なサイクリングを通じて、健康を増進し、自然との共生を図り地球環境を保全していくこと及び自転車に関する交通事故の防止に努めること』を基本コンセプトとして、自転車愛好者が心身ともに豊かな生活を楽しんでいただけるように活動を続けている。

最も身近な乗り物である自転車の利用は多岐にわたるが、サイクリングは健康の維持増進、スポーツとして各種競技活動、余暇活動の充実など様々な要素を備えており、目的に応じて楽しみ方は多種多様である。今回の調査ではスポーツ自転車を頻繁に利用していると思われる「全日本10時間耐久サイクリングinつくば」の参加者を対象に耐久調査のアンケートを実施した。

この調査の実施にあたって、財団法人日本オートスポーツセンター・筑波サーキット・日本クローズドサーキット耐久レース競技会・筑波記念病院・筑波大学・茨城県サイクリング協会・栃木県サイクリング協会など多くの関係者に多大なる協力をいただいた。

財団法人 日本サイクリング協会

調査の概要 / 役員名簿

調査の概要

調査の状況

1995年にスポーツ用自転車耐久調査事業のため「全日本12時間耐久サイクリングinつくば」として開始したこの大会は、開始当初から土曜の夜から日曜の朝にかけての時間帯で開催し、1回目こそ調査対象は約30チームだったが、回を重ねるに伴い人気も高まり参加チームも増えてきた。

今大会は日中の10時間耐久レースを開催し、昨年までの夜間開催から変更した。今回の参加者は183組860名で、そのうち全体の半数以上にあたる480名から回答が集まった。アンケートの内容は昨年と同じ項目とし、昨年との比較やより多くの結果を得ることで、現状の把握及び精度の高い調査を目指して実施した。

調査方法

調査票(アンケート)は受付時に各チームへ参加キットに封入して配布し、参加者個々が無記名で記入。レース開始前から閉会宣言まで、随時アンケート協力のアナウンスを行って回収した。(アンケート協力者には大会オリジナルタオルをプレゼント)

回答数と個々の集計数は回答項目に未記入があるため、必ずしも一致していない。また、参加者は出走準備や休息、自チームの応援など、レースに集中しているなか、その合間にアンケートを回収した。

参加者数と調査票(アンケート)回収数

参加者数	183組 860名	調査票回収数	480
------	-----------	--------	-----

役員名簿

大会役員

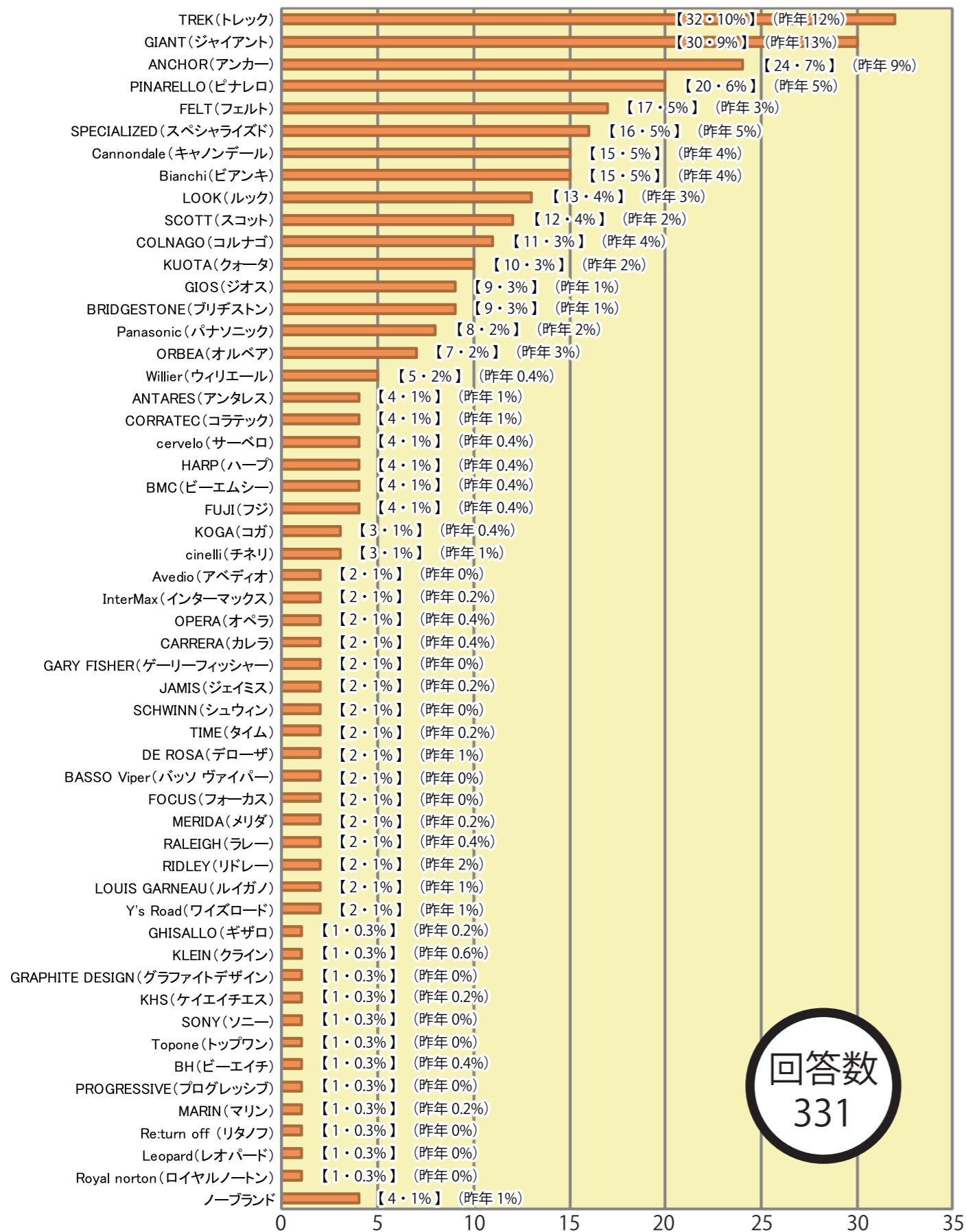
大会 会長	谷垣 禎一	(財)日本サイクリング協会 会長
大会 顧問	下重 暁子	(財)JKA 会長
	阿部 毅一郎	(財)日本自転車普及協会 会長
	阿部 忠壽	(財)自転車産業振興協会 会長
	島野 喜三	(社)自転車協会 理事長
	高野 次男	筑波サーキット 所長
	船田 元	栃木県サイクリング協会 会長
	狩野 安	茨城県サイクリング協会 会長

大会実行委員会委員

実行委員長	長澤 恵一	(財)日本サイクリング協会 理事・事務局長
実行委員	鴻丸 義次	日本クローズドサーキット耐久レース協議会 会長
	谷塚 浩	日本クローズドサーキット耐久レース協議会
	竹之下 守	日本クローズドサーキット耐久レース協議会
	金山 潔	栃木県サイクリング協会 理事長
	海老原 清	(有)エビコー 代表取締役
	小林 博	(財)日本サイクリング協会 業務第1部 次長
	石井 千博	(財)日本サイクリング協会 総務部 次長
	山口 文知	(財)日本サイクリング協会 業務第1部 課長
	矢島 淳	(財)日本サイクリング協会 業務第1部 係長
協力病院 総合司会	筑波記念病院 絹代	

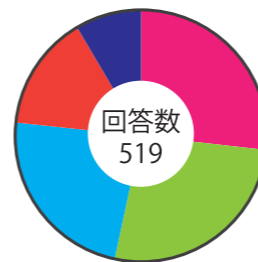
調査結果①

使用自転車のメーカー



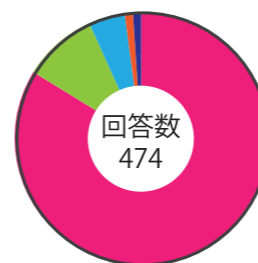
調査結果②

使用自転車の購入理由 ※複数回答あり



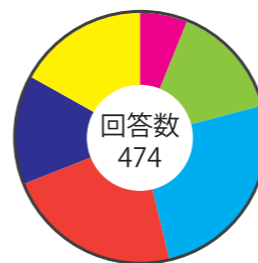
- デザイン【139・27%】 (昨年 25%)
- 機能性【138・27%】 (昨年 30%)
- ブランド【121・23%】 (昨年 20%)
- 人に薦め得られて【77・15%】 (昨年 17%)
- その他【44・8%】 (昨年 7%) ※44の回答数のうち「価格」の回答が「18」

使用自転車の車種



- ロードレーサー【397・84%】 (昨年 86%)
- クロスバイク【45・9%】 (昨年 8%)
- MTB【22・5%】 (昨年 4%)
- フォールディングバイク【5・1%】 (昨年 0.3%)
- 小径車【5・1%】 (昨年 1%)

使用自転車の購入価格



- 5万円以下【29・6%】 (昨年 4%)
- 6万円～10万円【70・15%】 (昨年 18%)
- 11万円～20万円【120・25%】 (昨年 24%)
- 21万円～30万円【108・23%】 (昨年 18%)
- 31万円～40万円【67・14%】 (昨年 14%)
- 41万円以上【80・17%】 (昨年 21%)

評価

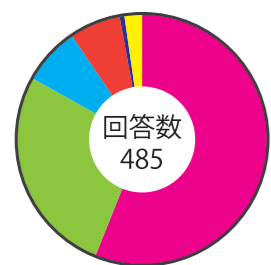
TREK、GIANT、ANCHOR など有名自転車ブランドが多くの割合を占めたが、様々なブランドでの参加が特徴である。購入理由を見ると、「デザイン」「機能性」「ブランド」の三つの項目が同じぐらいの割合となり、この3項目を重きにおいて自転車を購入していることが分かる。

競技志向の強い本大会は、ロードレーサーの参加が主流となっている。ロードレーサー以外の参加の割合は、昨年とほぼ変わらない全体の約15%を占めている。

自転車の購入価格は、約半数が11万円～30万円となっている。31万円～40万円が14%に対して、41万円以上が17%と高くなっているのは、より機能性の高いものを求めている人が多いことが窺える。

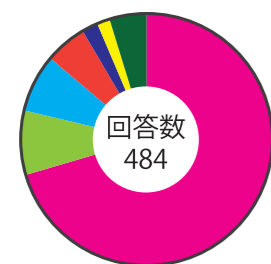
調査結果③

使用自転車のフレームの材質



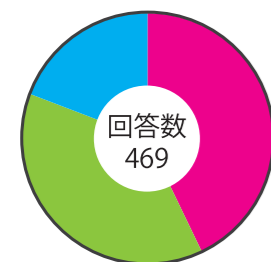
- カーボン【272・56%】(昨年 52%)
- アルミ【131・27%】(昨年 30%)
- チタン【36・7%】(昨年 8%)
- クロモリ【32・6%】(昨年 7%)
- マグネシウム【3・1%】(昨年 1%)
- その他(不明含む)【11・2%】(昨年 1%)

次に購入したい車種 ※複数回答あり



- ロードレーサー【341・70%】(昨年 76%)
- クロスバイク【40・8%】(昨年 7%)
- MTB【36・7%】(昨年 6%)
- 小径車【26・5%】(昨年 3%)
- フォールディングバイク【10・2%】(昨年 1%)
- シティバイク【8・2%】(昨年 1%)
- その他【23・5%】(昨年 5%)

自転車の重量について



- 気になる【201・43%】(昨年 51%)
- 少し気になる【178・38%】(昨年 32%)
- 気にならない【90・19%】(昨年 17%)

評価

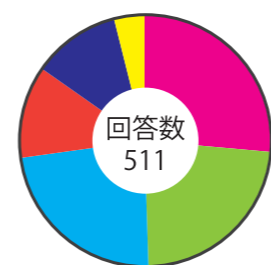
近年の自転車フレームの素材は飛躍的に進歩しており、その最高峰がカーボンフレームである。本大会参加者の自転車は、半数以上が既にカーボンフレームを使用しており、競技志向の高さが窺える。昨年と比較してみると、アルミフレームを使用していた人たちがカーボンフレームに移行していると思われる。

自転車愛好家がカーボンフレームに自転車を替えていったように、軽量にこだわる参加者が大半を占めた。

次に購入したい車種はロードレーサーが大半で、全体の7割を占めた。2台目以降もロードレーサーの購入を求めていることで、ここでも参加者の競技志向の高さが窺える。

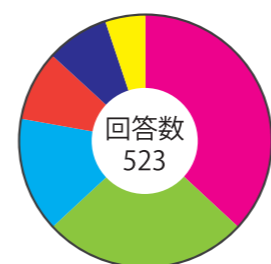
調査結果④

フレームデザインを決めた理由 ※複数回答あり



- 機能性【135・26%】(昨年 26%)
- カラー【119・23%】(昨年 25%)
- ブランド【118・23%】(昨年 22%)
- 雰囲気【61・12%】(昨年 12%)
- 人に薦められて【58・11%】(昨年 11%)
- その他【20・4%】(昨年 5%)

コンポーネントを決めた理由 ※複数回答あり

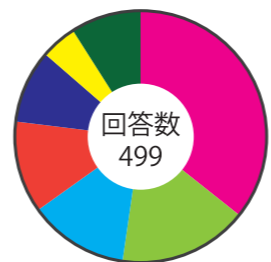


- 機能性【193・37%】(昨年 37%)
- ブランド【137・26%】(昨年 25%)
- 価格【77・15%】(昨年 16%)
- 人に薦められて【47・9%】(昨年 11%)
- デザイン【42・8%】(昨年 5%)
- その他【27・5%】(昨年 5%)

使用メーカー TOP 3

1. SHIMANO / 91
2. Campagnolo / 10
3. SRAM / 4

ハンドルを決めた理由 ※複数回答あり



- 機能性【178・36%】(昨年 36%)
- ブランド【83・17%】(昨年 20%)
- 価格【64・13%】(昨年 12%)
- 人に薦められて【59・12%】(昨年 11%)
- 仕上がり【47・9%】(昨年 7%)
- プレーキレバーとのマッチング【23・5%】(昨年 6%)
- その他【45・9%】(昨年 9%)

使用メーカー TOP 3

1. DEDA / 20
2. NITTO / 16
3. BONTRAGER / 8

評価

フレームデザインを決めた理由は「機能性」「カラー」「ブランド」で全体の7割を占めた。競技志向の高い本大会では「機能性」の項目に、より多くの回答数があると思われた。しかし、「カラー」と「ブランド」にも重きを置いている点は、車など高級な商品を購入するのと同じ感覚であることが分かる。

コンポーネントの日本市場では2大メーカーの「SHIMANO」と「Campagnolo」がほぼ独占していることが分かる。その2つのブランドと「機能性」を重視している回答が多くみられた。ハンドルを決めた理由は「機能性」の回答が一番多いが、その他の項目には回答が割れ、ブランドへのこだわりが少ないパーツだと考えられる。

調査結果⑤

サドルを決めた理由 ※複数回答あり

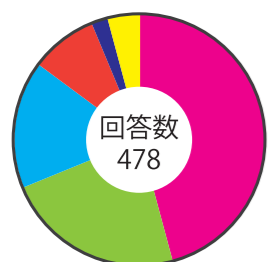


- 機能性【205・41%】(昨年 39%)
- ブランド【92・18%】(昨年 20%)
- 価格【68・14%】(昨年 12%)
- デザイン【46・9%】(昨年 12%)
- 人に薦められて【43・9%】(昨年 10%)
- その他【46・9%】(昨年 7%)

使用メーカー TOP 3

1. Selle Italia / 21
2. san marco / 16
3. fi'zi:k / 15

ペダルを決めた理由 ※複数回答あり

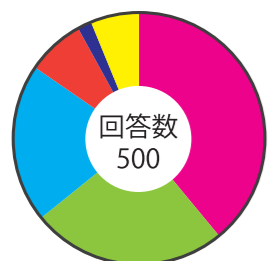


- 機能性【219・46%】(昨年 41%)
- ブランド【110・23%】(昨年 25%)
- 価格【78・16%】(昨年 18%)
- 人に薦められて【41・9%】(昨年 9%)
- 仕上がり【10・2%】(昨年 4%)
- その他【20・4%】(昨年 3%)

使用メーカー TOP 3

1. SHIMANO / 61
2. LOOK / 21
3. TIME / 7

シューズを決めた理由 ※複数回答あり



- 機能性【195・39%】(昨年 39%)
- ブランド【126・25%】(昨年 24%)
- 価格【102・20%】(昨年 22%)
- 人に薦められて【37・7%】(昨年 8%)
- 仕上がり【9・2%】(昨年 5%)
- その他【31・6%】(昨年 3%)

使用メーカー TOP 3

1. SHIMANO / 35
2. SIDI / 22
3. adidas / 9

評 価

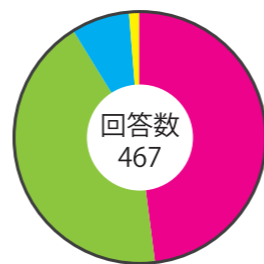
サドルを決めた理由は「機能性」の回答が断トツで、他の項目はほぼ均等に分かれる結果となった。使用メーカーもあらゆるメーカーが使用されており、ブランドへのこだわりが低いパーツだと考えられる。

ペダルを決めた理由も「機能性」が大半だが、「ブランド」への回答も多くみられた。使用メーカーは「SHIMANO」と「LOOK」で約9割を独占しているのが分かる。

シューズを決めた理由は、他の項目と比べると「機能性」の割合が少なく、「ブランド」及び「価格」への回答が高いことが窺える。理由として自転車の機能とは直接関係ないパーツであることが考えられる。

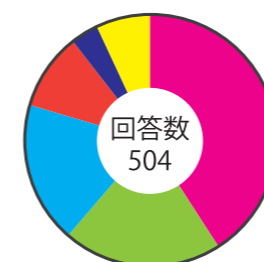
調査結果⑥

本大会で使用するタイヤの種類



- WO【224・48%】(昨年 55%)
- チューブラー【204・44%】(昨年 36%)
- チューブレス【35・7%】(昨年 8%)
- その他【6・1%】(昨年 1%)

ホイールを決めた理由 ※複数回答あり

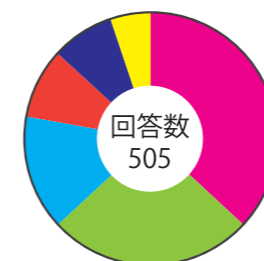


- 機能性【206・41%】(昨年 41%)
- ブランド【103・20%】(昨年 20%)
- 価格【92・18%】(昨年 21%)
- 人に薦められて【50・10%】(昨年 7%)
- 仕上がり【18・4%】(昨年 7%)
- その他【35・7%】(昨年 0%)

使用メーカー TOP 3

1. MAVIC / 23
2. SHIMANO / 16
3. FULCRUM / 9

タイヤを決めた理由 ※複数回答あり



- 機能性【205・41%】(昨年 36%)
- ブランド【106・21%】(昨年 17%)
- 価格【67・13%】(昨年 15%)
- 人に薦められて【46・9%】(昨年 8%)
- 耐久性【39・8%】(昨年 19%)
- デザイン【15・3%】(昨年 3%)
- その他【27・5%】(昨年 3%)

使用メーカー TOP 3

1. Michelin / 34
2. Vittoria / 14
3. Continental / 14

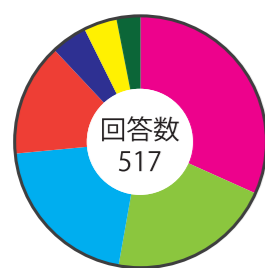
評 価

市場ではタイヤの種類がチューブラーからWOに移行しているものが多く、その2つが同じぐらいの割合で合計92%を占めた。今後は使い勝手のよいWOの使用が高くなると予想される。

ホイール・タイヤを決めた理由は、上位2つの「機能性」「ブランド」がともに同じぐらいの割合で、それぞれ約40%、約20%となっている。使用メーカーはホイールが「MAVIC」、タイヤが「Michelin」と全体の約3~4割を占めているが、あらゆるメーカーが使用されていた。競技志向の強い本大会の参加者にとっては気にあるパーツであり、個々のこだわりが表れるパーツだと考えられる。

調査結果⑦

ヘルメットを決めた理由 ※複数回答あり

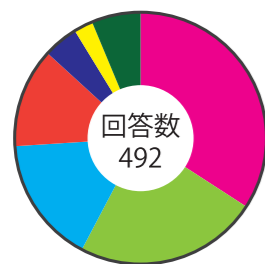


- 機能性【164・32%】(昨年 32%)
- 価格【109・21%】(昨年 18%)
- ブランド【107・21%】(昨年 21%)
- デザイン【75・15%】(昨年 17%)
- 人に薦められて【24・5%】(昨年 4%)
- カラー【22・4%】(昨年 3%)
- その他【16・3%】(昨年 4%)

使用メーカー TOP 3

1. OGK / 52
2. MET / 11
3. BELL / 8

アイウエアを決めた理由 ※複数回答あり



- 機能性【168・34%】(昨年 32%)
- ブランド【116・24%】(昨年 21%)
- 価格【80・16%】(昨年 18%)
- デザイン【63・13%】(昨年 17%)
- 人に薦められて【22・4%】(昨年 4%)
- カラー【12・2%】(昨年 3%)
- その他【31・6%】(昨年 4%)

使用メーカー TOP 3

1. OAKLEY / 19
2. OGK / 18
3. RUDY PROJECT / 13

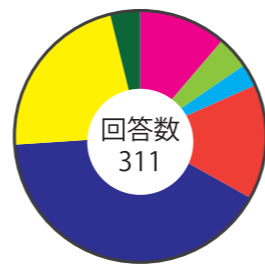
評価

ヘルメットとアイウエアを決めた理由は、他の項目と比べて「機能性」の割合が低く「ブランド」「価格」「デザイン」の3つの項目の合計が半数以上を占めた。シューズと同じく自転車には直接関係のない物で、身に付けるパーツの特徴だと考えられる。

また、使用メーカーではヘルメットは大手ブランドの「OGK」の使用が大半である一方、アイウエアは様々なメーカーが使用されていた。

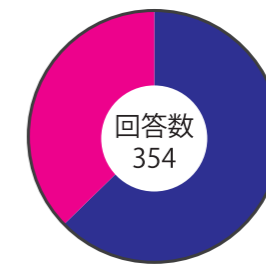
つくば耐久レースへの要望

耐久レースの希望時間



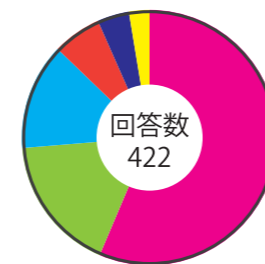
- 4時間以下【35・11%】
- 4時間【13・4%】
- 6時間【9・3%】
- 8時間【46・15%】
- 10時間【41・13%】
- 12時間【69・22%】
- 12時間以上【12・4%】

耐久レースの実施時間帯



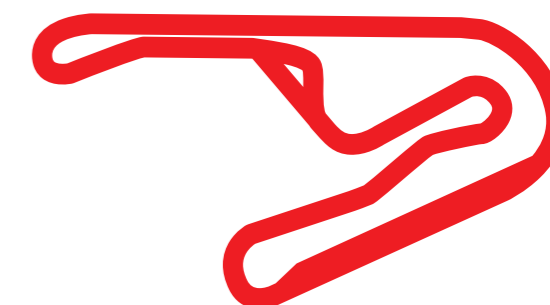
- 夜間【222・63%】
- 昼間【132・37%】

開催場所の希望 ※複数回答あり



- つくば【238・56%】
- もてぎ【73・17%】
- 富士【57・14%】
- 袖ヶ浦【26・6%】
- 鈴鹿【17・4%】
- その他【11・3%】

TSUKUBA CIRCUIT (2.4km / lap)



要望について

耐久レースの希望時間では8時間以上の回答が圧倒的で、本大会に参加する方の競技志向の高さと、長時間レースの面白さを求めていることが窺える。また、真夏の大会ということもあり、日が出ていない夜間に実施してほしいといった要望が6割以上寄せられた。開催場所の希望ではつくばサーキットの他、近隣のもてぎ、関東圏から行きやすくF1も開催された、富士スピードウェイでの開催を求めている。



大会の様子①

スタート前会場



自転車の他、テントや補給物など沢山の荷物を会場に運ぶ



多くのテントが立ち並ぶ各チームの休憩エリア



レース前のブリーフィングに耳を傾ける選手たち

スタート



スタート整列をしている選手に声援をおくるチームメイト



コースの両サイドに分かれて一斉にスタート



バイクの先導で1周してきた選手たち

レース

1周2.4kmの筑波サーキットに183組885人の参加者がレースを楽しんだ。医師・看護師の常駐の他、救命士による自転車での巡回など救護体制を敷いたが、幸いにも今大会では大きな事故・怪我もなく大会を終えることができた。



大会の様子②

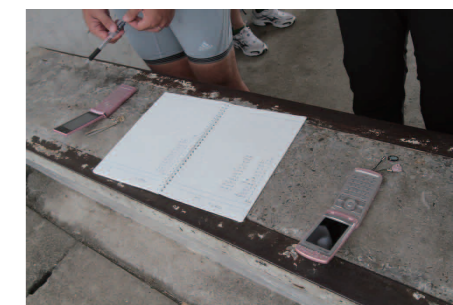
ピット



ピットでは自転車に付いている計測タグを交換する



ピット内でスピードの出しすぎを監視するスタッフ



選手交代の作戦を綿密に組み立てるチームも見られた

レース中会場 他



ピットから声援をおくるチームメイトと観客



走行の合間にマッサージを受ける参加者



会場には参加者の自転車がとろ狭しと並べられた



自転車チーム毎の参加が目立つ長時間の耐久レース



真夏のレースということもあり各チームクーラーボックスを持参



今年もTシャツが参加賞として配布された